

## 平成 20 年度第 1 回建築学教育 F D / I T 活用研究委員会議事概要

I. 日時：平成 20 年 6 月 7 日（土）午前 11 時から午後 1 時まで

II. 場所：アルカディア市谷（私学会館）

III. 出席：若井委員長、衣袋委員、真下委員、寺尾委員  
井端事務局長、森下、恩田

### IV. 議事概要

#### 1. 本年度活動について

本年度の委員会では中央教育審議会の審議のまとめを受けて、分野別の固有の学士力の検討を行うこととした。

中央教育審議会の審議のまとめ、OECD の動向などの資料を検討した後、各委員が準備した資料に基づいて検討を行った。

#### 2. 建築学教育における学士力について意見交換 資料④～⑧

- 大学淘汰の時代に入って、各大学が社会にどうアピールするかが重要である。
- 一級建築士試験の受験要件に拘りすぎると、専門学校と変わらない内容になってしまう。大学としての立場から、独自の特色を持つべきである。例えばインテリアデザインなどに特化したものがあるのも良いのではないか。
- 社会が求めている建築学教育における「学士力」には、基礎学力は当然であるが、企画開発能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が考えられる。
- 特に、学生には、「ハウレンソウ（報告、連絡、相談）」が大事であると思う。
- 「5W2F1H」\*のスタンスで考えることを身に付けさせたい。  
(What, Why, Who, Where, When, For anyone, For anything, How)
- 文科省が「特色ある学科教育」を求めているのに対して、国交省（建築技術教育普及センター）が建築士の受験要件として建築学教育のカリキュラムの画一化を求めていることには大きな矛盾がある。芸術系大学等における従来の建築学教育の中で、それらの要求を満足させることは容易ではない。
- 建築設備系の専門から、当該分野の「学士力」は、大学教育ではまず基礎学力を身につけることが主要で、実務教育は、入社後に OJT（Off Job Training, On Job Training）という研修制度で専門技術を習得することになる。
- シミュレーション能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などとともに、企画から設計施工、更新・解体までの CAD 能力が必要となろう。
- 新しい建築士制度の導入に伴って、来年度の新入生から適用される「建築士試験の受験資格要件として指定科目の確認の審査基準」は、現在、建築系の大学等がカリキュラムの対応について検討作業が進められている段階である。

- ・ 今回討議する「学士力」は、大学学部を対象とするものとする。
- ・ 建築分野には、安全・安心に対するコンプライアンスの必要性と、社会に対する信用と信頼の確立が求められる。
- ・ 建築の安全・安心に対する「オンブズマン制度」や建築の安全・安心について社会にアピールすることが必要である。

### 3. 今後の活動について 資料⑨

- ・ 本委員会における本年度の目標として、建築学教育において懸案であった施工系の意見を取り入れることを検討したい。
- ・ 社会へのアピールに関して建築学会の会長を招聘して意見交換を行いたい。
- ・ 各学系からの学士力に関する意見を取り纏めて、1～2 行のイメージで文部科学省に提案・報告する予定である。

### 4. その他 資料⑩

- ・ 参考資料で紹介された「OECD の教育コストと質に関するフィージビリティ・スタディに関する国際調査～」は、今後の大きな課題となる。
- ・ 「建築学教育における学士力」は、各委員の共通認識が得られていない段階だが、次回までに本委員会としての見解を取りまとめた。

### 5. 次回の委員会開催日

平成 20 年 8 月 26 日（火）14：00～16：00

### 6. 次回までの宿題

『建築学教育における学士力について』

\*7 月末日までに、各委員のご意見を事務局宛にお願いしたい。